



近所にポプラ倶楽部を中心とした画かき村があるだけに  
外へでると黒のソフトによく逢着する 逢着する度に芸術  
が紺緋を着てあるいてゐるやうな気がする——芥川龍之介

企画展

“画かき村”

の

繪描きたち

—明治・大正時代の田端—

2017

1.27 金  $\rightarrow$  5.7 日

会場 | 田端文士村記念館 企画展示スペース

開館時間 | 10:00 ~ 17:00(入館は 16:30 まで)

休館日 | 月曜日(祝日の時は火・水曜日)

祝日の翌日(土日の時は翌火曜日)

年末年始(12/29 ~ 1/3)

入場料 | 無料

主催 | 公益財団法人 北区文化振興財団

田端文士村記念館

共催 | 東京都北区

企画展

# “画かき村” の 繪描きたち

—明治・大正時代の田端—

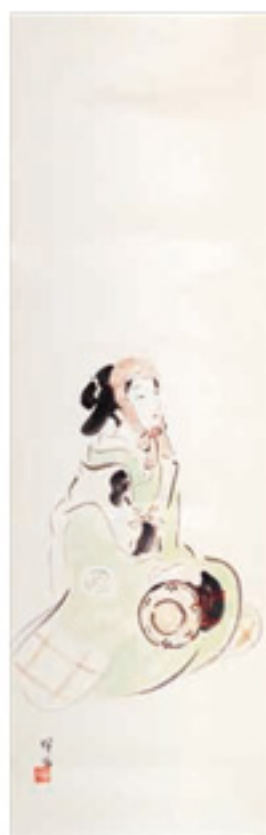
1914（大正3）年、芥川龍之介が田端に住みはじめてまもなく、友人へ送った手紙に「近所にポプラ倶楽部を中心とした画かき村があるだけに外へでると黒のソフトによく逢着する 逢着する度に藝術が紺紺を着てあるいてゐるやうな気がする」と書いています。明治末頃の田端は、上野の東京美術学校（現・東京藝術大学）に近かったことなどから芸術家の住まいが多く、アトリエ付きの家が点在していました。やがて画家・小杉放庵たちによって創設された「ポプラ倶楽部」という社交場も生まれ、さながら芸術家村のようでした。

この展覧会では、のちに文士村と呼ばれるようになった田端の地で創作活動を行った画家たちに焦点をあて、その作品とともに周辺の文士・芸術家との交流を紹介します。この機会に、当館の絵画コレクションを広くご覧いただけることを願っています。



「田端駅裏口」小穴隆一 1914(大正3)年

かつて田端が  
“画かき村”  
だった頃。



「万歳」(部分) 右：池田蕉園 左：池田輝方  
1914(大正3)年頃



「母」小杉放庵(未醒) 大正時代

## 田端ゆかりの作家

池田蕉園、池田輝方、石井柏亭、小穴隆一、  
倉田白羊、小杉放庵、竹久夢二、田辺 至、  
寺内萬治郎、水木伸一、南 薫造、村山槐多、  
山本 鼎、吉村芳松など

〒114-0014 東京都北区田端 6-1-2 ☎ 03-5685-5171  
JR 京浜東北線・山手線「田端駅」北口から徒歩2分  
URL: <http://www.kitabunka.or.jp/tabata/>  
(公財) 北区文化振興財団

田端文士村記念館  
TABATA Memorial Museum of Writers and Artists



入場無料



※駐車・駐輪場は隣接の  
有料施設をご利用ください。